

II 避難所感染症予防対策

避難所は、集団生活の場であり、衛生状態が悪化しやすく、避難生活が長期に及んだ場合には体力の消耗により免疫力が低下することがあるため、**感染症が拡大しやすい環境**です。

◎**環境の衛生対策，感染症予防対策，発生時の迅速な対応をお願いします。**

【避難所で注意すべき感染症】

感染症	主な感染経路	感染様式	主な予防・対応策
ノロウイルス等による感染性胃腸炎，腸管出血性大腸菌感染症（O157 など）	接触感染（経口含む）	直接・間接的に触れることによる感染 手指・食品・器具等を介して感染	手洗い 手袋着用 予防衣(ガウン)
インフルエンザ，流行性耳下腺炎（おたふくかぜ），風しんなど	飛沫感染	咳やくしゃみ，会話などの際にしぶき（飛沫）を吸い込んで感染	手洗い マスク着用
結核，麻しん（はしか），水痘（水ぼうそう）	空気感染	空気中を浮遊する，小さな病原体の粒子を吸い込むことで感染	N95 マスク着用

※ 結核や麻しんが発生した場合，保健所が多数の避難者に接触者調査を行うことがあります。

【感染症の予防・対策】

- ・ **こまめな手洗い（難しい場合はアルコール手指消毒薬の使用），咳エチケット（必要時，マスクの着用等）**を呼びかけましょう。
- ・ 感染症患者が発生した場合は，他の避難者への感染拡大を防ぐため，基本的に**個室管理**で対応しましょう。
- ・ 職員，ボランティアは，風邪症状を含め，感染症の症状がある場合は，避難所に行かないようにしましょう。
- ・ 避難者や職員が受診・治療が必要な場合に備え，医療機関の受診，医療チームの往診等の体制について，対策本部や保健部門等に確認しておきましょう。

◆使い捨ての個人防護具を正しく装着しましょう。

種類	使用するときの例	使用するときの注意
手袋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排泄介助，おむつ交換 ・ 血液，体液，吐物等に触れるとき ・ 自分の手指に傷があるとき ・ トイレの清掃時 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手袋は1 処置ごとに外して捨てる ・ 手袋をしたままドアノブなどに触れない ・ 手袋を外すときは，表面が汚染されているため，表面に触れないように外す ・ 外した後は必ず手洗いをする
マスク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 咳をしている人と接するとき ・ 自分が咳をしているとき ・ 吐物処理時 ・ トイレの清掃時 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 汚染した場合はその都度交換する ・ 同じマスクを繰り返し使用しない（1日使用したものは破棄する）
ビニールエプロンなど	<ul style="list-style-type: none"> ・ 血液や体液に触れる可能性があるとき ・ 吐物処理時 ・ トイレの清掃時 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使い捨てビニールエプロンの使用が有効 ・ 処置が済んだら速やかに脱いで，表面に触れないように取り扱う

◆消毒剤の使用

血液や体液及び吐物等で汚染された場合や、感染症が疑われる場合には、汚染された場所や物を、アルコール、次亜塩素酸ナトリウム（家庭用の塩素系漂白剤で代用可能）などを使用し、消毒します。

感染源となる細菌やウイルスに適した消毒薬を、適切に使うことが大切です。

※ 使用する際は、噴霧消毒は避けましょう。

	次亜塩素酸ナトリウム	アルコール
商品名	ピューラックス、ジアノック、ミルトン、ハイター、ブリーチ 等	【①アルコール】 エタノール、消毒用エタノール、アルペット 等 【②アルコール手指消毒薬】 ウェルパス、ヒビスコール 等
消毒の濃度	<ul style="list-style-type: none"> 塩素濃度6%の薬液が一般的に市販されており、通常 60 倍～300 倍に希釈（薄めて）使用 汚れをよく落とした後、薬液に 10 分浸し、水洗いする 	<ul style="list-style-type: none"> 原液（70～80%）で使用 希釈しない（薄めない）
適応対策	<ul style="list-style-type: none"> 環境に使用 便器・ドアノブ・遊具・衣類・嘔吐物や下痢便が付着した場所 等 	<ul style="list-style-type: none"> ①環境に使用 遊具・便器・トイレのドアノブ 等 ②手指のみに使用
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 有機物汚染状態では無効（吐物、汚物を取り除いてから消毒する。消毒液を入れたバケツに汚れた雑巾を入れた場合は、消毒液を交換する必要がある。） 漂白作用がある 	<ul style="list-style-type: none"> 【①②共通】 ゴム製品・合成樹脂等は変質するので長時間浸さない 引火性がある 【②】・手荒れに注意 粘膜には使用しない
用途	どちらも多くの細菌、ウイルスに有効ですが、ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使用する（嘔吐、下痢等の感染性胃腸炎の場合）	

●原液に含まれる次亜塩素酸ナトリウムの濃度約5～6%を使った消毒液の作り方

『注意事項』

- 使用する際は換気を十分に行いましょう。
- 使用する際は必ず手袋を使用し、消毒液が皮膚についた場合は直ちに水で洗い流してください。
- 他の薬剤、特に酸性の薬剤と混ぜると有毒ガスが発生しますので注意してください。
- 作った消毒液は時間の経過とともに効果が減少しますので、作り置きせず、早めに使い切ってください。
（原液は密閉し、冷暗所で保管）
- 金属に対しては腐食性があるため、消毒後、水で洗い流すか拭き取ってください。

※ その他、薬剤の「使用上の注意」を確認しましょう。

ペットボトルを使った

消毒液の作り方



【用意するもの】

次亜塩素酸
ナトリウム液



原液の濃度
約5~6%

ペットボトル
(よく洗ったもの)



じょうご
(金属製以外)
や紙コップ



ゴム・ビニール
手袋(必ず使用)



水



【作り方】

- ・初めにペットボトルの半分くらいまで水を入れておきます。そこへ塩素系漂白剤原液(ペットボトルのキャップ1杯=5ml)を入れます。最後にペットボトル一杯に水を入れます。ふたをして、よく振って混ぜ合わせてください。



+

塩素系漂白剤原液
をボトルキャップ
8杯



=

濃度 0.1%
(1,000ppm)

使用箇所

便や嘔吐物が付着
した床や便器, 衣類
など



+

塩素系漂白剤原液
をボトルキャップ
2杯



=

濃度 0.02%
(200ppm)

使用箇所

ドアノブ, 蛇口など直
接手で触れる部分や
環境

※ 消毒液をいれたペットボトルは **消毒液・飲用不可** 等の表示をして、乳幼児の手の届かない場所に保管するなど、誤飲を防ぎましょう。

◎ 吐物処理の場合は、消毒液を4L程使用するため、バケツに消毒液を作成しましょう。
⇒ 吐物処理方法 P8 参照。